

はあふるぶくしま 別冊

福島県災害ボランティアセンター通信

Vol.10 2011年6月27日発行

●この情報紙について 被災地の復興と被災者の方のサポートを行う災害ボランティアの活動と、今すぐ役立つ情報や取り組みを皆様にお伝えする情報紙です。県内の災害ボランティアセンターなどで配布されます。(週一回程度) ご感想・ご意見は下記宛お寄せください。

発行: 社会福祉法人 福島県社会福祉協議会
福島県災害ボランティアセンター
 〒960-8141 福島市渡利字七社宮111番地
 福島県総合社会福祉センター1F
TEL024-522-6540 FAX024-522-6546
<http://www.pref-f-svc.org/>



いわき市を放送対象とする「いわき市民コミュニティ放送」(愛称: SEA WAVE FMいわき)は、発災直後より通常番組を中止し、安否情報や避難所情報、給水情報など、マスメディアでは扱えない、市民に役立つ身近な情報を発信。スタッフ自身も被災していましたが、発災直後より局に泊り込んで放送を続けたそうです。

各地のコミュニティFMなどからの支援を受け、避難所等で生活する市民に受信機を配布。停電等でテレビや電話が使えない、あるいは本当に知りたい細かい情報がマスメディアでは流されないなか、徹底的に市民に寄り添った「役に立つ」情報を流したことから、「FM放送は若者向け」と敬遠していた高齢者などもその底力と意義に開眼。感謝の声も寄せられたそうです。

ボランティアレポート1 いわき市「いわき市民コミュニティ放送」(愛称:SEA WAVE FMいわき)

テレビや電話が使えない! そんなとき...
 ~災害時の情報発信に力を発揮したコミュニティFM~



番組はインターネット(<http://www.fm-iwaki.co.jp/>)を通じて同時放送。電波の届かないところでも聴取できるのも強みです。

ライフライン関係が落ち着いてきてからは、「音の記録」を残すことを意識し、関係各機関や市民のインタビューにより発災後の動きや思い、今後へ期待などを伝える番組を制作、アーカイブ化の準備を進めています。

今回の災害では特にコミュニティの崩壊が心配されていますが、FMいわきは、「地域の絆をつなぎ、新たなまちづくりに役に立つことこそがコミュニティFMの使命」として、今後も多角的な取り組みを行っていくそうです。

ボランティアレポート2

仮設住宅への生活支援品搬入ボランティア

福島市南矢野目応急仮設住宅(208戸)は、浪江町住民の皆さんが入居されます。入居説明会と鍵渡しが行われる前日(6/19)に、生活支援品の搬入作業が行われました。

すでに、「家電6点セット」は搬入済みですが、それだけでは、避難所から移られてすぐには食事をつくることもできません。そこで、浪江町が生活支援品(鍋、やかん、茶碗、布団、タオルケット、こたつなど)を発注。浪江町社会福祉協議会の志賀美樹さん(ボランティア担当)の案内のもと、ボランティアにより軒ずつ運び入れました。

ボランティアは、近隣の3つの町内会や消防団から、また福島学院大学のボランティアクラブ、福島市の災害ボランティアSBネット、その他個人で参加された方々など約100人。炎天下での作業でしたが、みなさんキビキビとした動きで、約1時間で作業を完了しました。

▲布団セットの運び込み



▲トラックから支援品のおろし作業

市町村災害ボランティアセンター紹介

20 生活支援ボランティアセンター「つながっぺ! おおくま」



▲開所式であいさつをする渡辺本部長。6月15日現在のボランティア登録者数は22人です

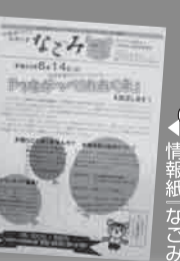


▲「サロン活動も広げていきたいと思っています」と武内さん(左端)

6月14日に発足した大熊町の生活支援ボランティアセンター「つながっぺ! おおくま」は、町民が町の社会福祉協議会にボランティア登録し、毎日の暮らしを支え合う仕組みづくりを目指しています。震災前、大熊町には約1万1,500人の町民が住んでいました。原発事故後、避難区域となったため現在は、会津若松市周辺に約3,000人、その他福島県内に約3,000人、県外に約5,000人の方が避難生活を余儀なくされています。こうした中で生まれたセンターの名前には、避難先でも町民の交流やつながりが続きますようにという願いが込められています。運営の柱は、「ボランティア活動の支援」「生活情報などの発信」「避難所支援」の三本です。「具体的には、仮設入居に伴う引っ越しのお手伝いや情報紙の発行、支援物資の配布などです。特に手厚くしたいと考えているのが仮設入居後の見守りです。皆さんが少しでも安心して暮らせるように、力を合わせて行きたいと思っています」とボランティアコーディネーターの武内智恵美さん(同社協)。大熊町のために何かしたいという方、登録はいつでもOKです。困りごとの相談もいつでも受け付けていますので、気軽に電話してください。



▲大熊町役場会津若松出張所で行われた開所式。前列中央はセンター本部長を務める渡辺利綱町長。「つながっぺ! 大熊あ!!」という掛け声と共にスタートしました



情報紙「つながっぺ! おおくま」

市町村災害ボランティアセンターMAP

6月27日現在、33カ所に設置されています。



★ 福島県災害ボランティアセンター …… Tel: 024-522-6540

- | | | | |
|--|---|--|---|
| <p>1 福島市災害ボランティアセンター</p> <p>2 二本松市災害ボランティアセンター</p> <p>3 伊達市災害ボランティアセンター</p> <p>4 本宮市災害ボランティアセンター</p> <p>5 桑折町災害ボランティアセンター</p> <p>6 国見町災害ボランティアセンター</p> <p>7 大玉村災害ボランティアセンター</p> <p>8 郡山市災害ボランティアセンター</p> <p>9 おだがいさまセンター(ビッグバレットふくしま生活支援ボランティアセンター)</p> | <p>10 須賀川市災害ボランティアセンター</p> <p>11 田村市災害ボランティアセンター</p> <p>12 鏡石町災害ボランティアセンター</p> <p>13 玉川村災害ボランティアセンター</p> <p>14 平田村災害ボランティアセンター</p> <p>15 小野町災害ボランティアセンター</p> <p>16 白河市災害ボランティアセンター</p> <p>17 西郷村災害ボランティアセンター</p> <p>18 矢吹町災害ボランティアセンター</p> | <p>19 会津若松市災害ボランティアセンター</p> <p>20 生活支援ボランティアセンター「つながっぺ! おおくま」</p> <p>21 喜多市災害ボランティアセンター</p> <p>22 西会津町災害ボランティアセンター</p> <p>23 磐梯町災害ボランティアセンター</p> <p>24 猪苗代町災害ボランティアセンター</p> <p>25 会津坂下町災害ボランティアセンター</p> <p>26 昭和村災害ボランティアセンター</p> <p>27 会津美里町災害ボランティアセンター</p> | <p>28 下郷町災害ボランティアセンター</p> <p>29 新地町災害ボランティアセンター</p> <p>30 相馬市災害ボランティアセンター</p> <p>31 南相馬市災害ボランティアセンター(鹿島区)</p> <p>32 // (原町区)</p> <p>33 いわき市災害救援ボランティアセンター</p> |
|--|---|--|---|